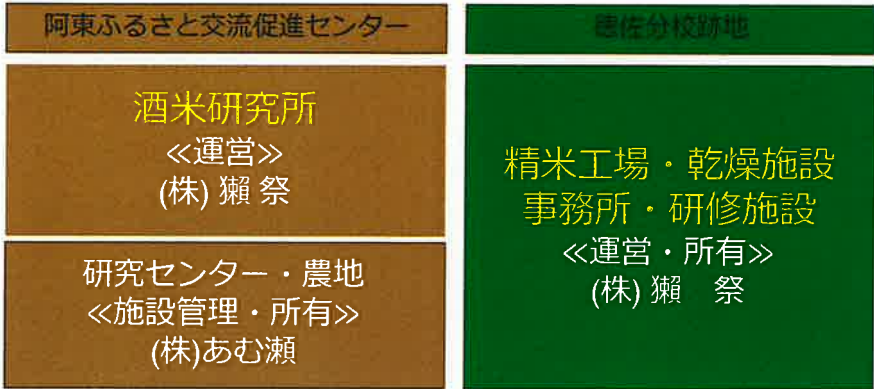
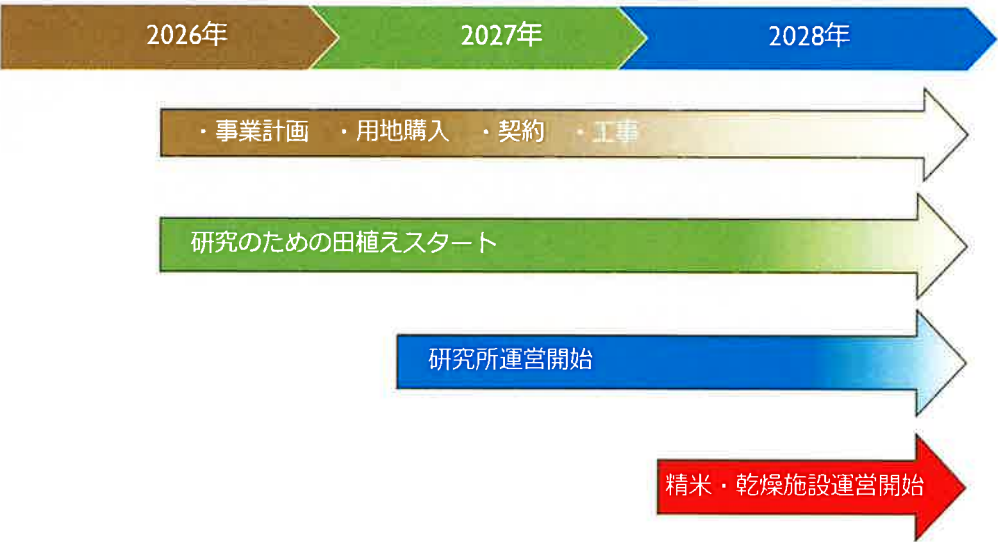


【様式第7号】 提案概要書

項目	内容	項目	内容
提案名称	日本酒と日本の農業の未来を支える存在へ 獺祭 酒米研究所および集荷・調整・精米・保管の各施設運営		◆図（パース、イメージなど）
提案の動機	◆提案の動機（「事業実現に対する熱意など」について記載してください。 ・酒蔵として 清酒製造を通して社会や地域への貢献を目指す。 清酒は人々の生活に必要不可欠な存在ではないが、生活に彩を与えることができる。また、その存在を日本の文化や伝統とともに紹介し、農産物には付加価値をつけて世界に発信することができる。酒蔵の発展に伴い蔵人の雇用が増えれば、必然的に地域への貢献にもつながると考えられる。 ・農業への貢献 獺祭の代名詞でもある「純米大吟醸」は、その原料のすべてを酒造好適米の頂点ともいえる「山田錦」で造る。収穫まで手間のかかる品種だが、その分取引価格も高く安定している。高精白により使用量も増加しており、阿東徳佐地区を日本有数の産地として育成し、農家の意欲向上と経営に貢献したい。		組織図 酒米研究所の運営は(株)獺祭が行い農地及び付随する施設は(株)あむ瀬が管理する。徳佐分校跡地に(株)獺祭による精米工場と保管倉庫を建設する。また、校舎を事務所・研修施設としての活用を検討する。 
提案の概要	◆提案の概要について記載してください。 ① 酒米研究所を新設 山田錦プロジェクトで得られた知見を実際の生産現場に反映させる為、研究や試験によって具現化し契約農家に情報提供する。具体的には、心白が小さく高精白に耐える特性への改良や高温障害を低減できる品種改良・栽培指導などがあげられる。また、山田錦の増産には種子栽培も課題であり、上記特性を反映させた種粳を生産農家に配布できるようになることを見込んでいる。 ② 阿東ふるさと交流促進センターの活用 既存の山田錦生産者、および新規就農者支援。 農業体験や自然学習に最適な環境を活かした活動を計画。 ③ 研究所の所長および技術者の招聘 株式会社あむ瀬 村田仲平氏（山田錦生産を通じて獺祭と古くから交流） 元山口県農林総合技術センター室長 金子和彦氏（酒米研究の専門家） ④ 産学連携による生育技術の開発 山口大学農学部教授 荒木英樹氏（スマート農業や生育診断技術の専門家） ⑤ 立地条件を活かした集荷施設と精米関連施設の運営 山田錦の生産量が増えるためには周辺環境の整備も課題となる。個人単位での設備投資は大きな負担であり、新規就農者や零細農家でも安心して生産に従事できる集荷・乾燥施設を整備する。また、将来的には徳佐分校も活用して精米・保管・物流・加工拠点とした構想を検討している。	全体の計画	スケジュール 

※A3版1枚とすること。必要に応じて欄の高さ、幅を変更すること。
※記載の項目は必須とする（項目の追加は不可）。また、図には必要に応じ説明用の文字などを挿入すること。
※優先交渉権者となった場合には、記載の内容について公表します。